

■(3)新聞でキャリア教育

盲学校をはじめ特別支援学校の生徒たちの大きな目標は、卒業後に社会で自立した生活を送ることです。彼らにとって、新聞は世の中の出来事や自分の興味や関心など、社会との接点となる情報を提供してくれる媒体です。

点字新聞では、毎月の最終号に「わたしの仕事」というコーナーが連載されています。視覚障害者の大人たちが、就職に至る過程、その仕事を目指した動機、面白さややりがい、苦労話などについて詳しく紹介されており、生徒は「先輩」達の仕事ぶりや生き様を学ぶ格好の教材になります。

総合的な学習の時間で、各自が興味を持った記事を選び、質問の手紙を書いたことがあります。仕事の内容や就職活動、高等部での過ごし方や現在の自分の悩みなど、内容は多岐にわたります。編集部の計らいで、これらは「先輩」達に届き、すべての皆さんから丁寧な返事をいただくことができました。ここから、お互いの趣味や学校生活、家族などの話題に発展することもあったようです。

一般紙の中で紹介された視覚障害者の記事も利用しました。盲学校の生徒が活躍したパラリンピックやピアノ国際大会などの行事、盲導犬の育成にまつわる話、そのユーザーの体験談などの記事を取り上げました。「見える人」が「見えない人」について紹介した紙面は、世の中における視覚障害者の存在を、より「正しく」描いていると感じます。卒業後の社会自立が最大の課題である盲学校の生徒たちにとっては、これらも貴重な情報といえるのです。

(石毛一郎:千葉県立佐原高等学校・前千葉県立千葉盲学校高等部)

。